

## 2.1 千葉県教員研修会 即興型英語ディベート研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)  
中川智皓

開催日時：2016年7月29日(金) 14:00-16:15

会場：千葉県教育会館新館501会議室

参加者：教員162名(162校)(ほか、英語部会、指導主事の先生方にもご観覧いただきました。)

助成：日本財団

平成28年7月29日(金)、千葉県教育会館501会議室において、「授業でできる！即興型英語ディベート」を主題とした研修が行われました。研修のまず初めに、一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)代表理事の中川より、挨拶とディベートの概要、ルールについての講義が行われました。現場における授業で導入できるよう、即興型英語ディベートは50分で行われます。中教審が高校の英語で「論理・表現」を新設するなど科目を再編する方針をまとめたとおり、それに伴う学校教育に於けるディベートの有用性を確認しました。



次に、教員の皆さんにも生徒の気持ちになって、実際にディベートを体験していただきました。ディベートでは、1つのお題が与えられ、それに対して肯定チーム、否定チーム、ジャッジのグループに分かれます。どのグループになるかはランダムで決められます。論題が発表されてからディベート実践が始まるまでの準備時間は15分です。今回の論題は「宿題を廃止するべきだ。」でした。

15分の準備時間後、ディベートが開始されました。生徒の立場に立って宿題の是非を考える方もいらっしゃれば、教師の立場に立って宿題の功罪について考える参加者もいらっしゃいました。それぞれのテーブルで自チームの主張を繰り広げ、ジャッジとして参加している先生方もスピーチに耳を傾けます。それぞれのスピーチを終え、ジャッジが勝敗とその理由を述べました。スタッフジャッジによる個々人のフィードバックでは、ディベートの内容に加え、スピーチの仕方や生徒への指導の際の配慮などのコメントも伝えられました。



真剣な面持ちでの相談



スピーチの様子



質疑応答にも即興で対応



議論の後には必ず握手

本研修の終わりに、千葉県高等学校教育研究会英語部会副部会長勝井 洋一先生よりご講評を賜りました。「今、千葉県による指導力向上事業と銘打って取り組んでいるCAN-DOリストの活用と今回の中川先生の即興型英語ディベートの講習内容は、まさに対応しており併せて推進してゆきたい内容であります。」ほか多くのご感想をいただき、今後の即興型英語ディベート推進へのご賛同をいただきました。



## 参加者の声（アンケートよりそのまま抜粋）

- ディベートはハードルが高いと思っていたが、ルールを明確にし、繰り返しの指導で十分可能だと感じた。
- 学校で活用してみたい！と思える内容の講義、演習をありがとうございました！
- 自分の主張を英語で「伝える」力、相手の主張を「聞く」力が必要なので、日本人にとって必要な機会だと思います。
- 生徒にやらせるには、まず自分がやってみないと分からない。どういう点が難しいのか身をもってやるべき。
- 新しい学力観をもって教育活動を進めるにあたり、そこに必要な複合的学力を育てるのに非常に適していると思った。
- 授業で何らかの形で取り入れたいと思いました。
- ディベートを実際に経験して、とても難しいと思いましたが、必ず英語を使わなければいけないこと、チームメンバーと協力して、論理的に理由を組み立てることは生徒に足りない力だと思うので、もっと生徒用にアレンジできれば良いと思った。
- 英語で自分の意見を即座に整理するのはトレーニングが必要なので、今後の取り組みへの良いきっかけとなると思う。
- 今回のように、強制的にでも教員側にディベートをさせるというのは、非常に効果的だったと思います。

---

## 本研修会にて選ばれたベストディベーター

千葉商業 ■■■先生

船橋高等学校 ■■■先生

流山北高等学校 ■■■先生

薬園台高等学校 ■■■先生

君津高等学校 ■■■先生

館山総合（定時制） ■■■先生

柏高等学校 ■■■先生

犢橋高等学校 ■■■先生

成田国際高等学校 ■■■先生

八街高等学校 ■■■先生

市原高等学校 ■■■先生

千葉学芸高等学校 ■■■先生

千城台高等学校 ■■■先生

松戸高等学校 ■■■先生

四街道高等学校 ■■■先生

天羽高等学校 ■■■先生

千葉経済大学附属高等学校 ■■■先生